

2021年8月31日第76回運輸政策セミナー
モビリティ・マネジメント×MaaS：最強タッグで人々の行動が変わる
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日も、ご多用の中、大変多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。ごさいます。

さて、本日のセミナーでは、「モビリティ・マネジメント×MaaS」と題しまして、モビリティ・マネジメントとMaaSの関係や、両者の組み合わせによりもたらされる効果等について取り上げます。

まずMaaSについて申し上げますと、皆様もご存じの通り、現在国内の各地で実証的な取り組みが進められております。

MaaSは、アプリ等を活用した情報提供により利用者を最適な交通手段や経路に導くことに資するものといえます。

この点については確かではありますが、一方で、日本におけるMaaSについての議論や認識の中には、アプリ等によって移動手段の選択や予約決済などのハードルが下がれば、人々は今まで以上に公共交通を使うようになると、どうも楽観的にとらえられている感がみられることも気になるところです。

運輸総合研究所では、2年前の2019年春から、MaaSに限ることなく、広く新しいモビリティサービスの可能性とそのあり方について、継続的にセミナーを開催するなどして検討を深め、さらに2020年7月からは、「新しいモビリティサービスの実現方策検討委員会」を設置し、2年間の予定で、新しいモビリティサービスが持続可能な形で有効に社会実装されることを目指して、実証的な検討を進めています。

本日のセミナーも、この検討の一環として開催するものであります。

他方、モビリティ・マネジメントは、人々の交通行動が、インフラの整備や交通システムの改変のみならず、「人々の意識が変わること」によっても変化するというところに着目して、自発的な交通行動の変化を導くためのコミュニケーションを重視した施策です。

したがって、MaaSに加えて、コミュニケーションを重視した交通施策である「モ

「モビリティ・マネジメント」を組み合わせれば、さらに強力に人々の行動変容を促せる可能性があるのではないか、というのが本日のテーマです。

本日のセミナーでは、まず、モビリティ・マネジメントに関する研究の第一人者である、筑波大学大学院システム情報工学研究科教授の谷口綾子先生から、交通渋滞の緩和、公共交通の利用促進、交通安全など、人々の行動変容が望まれる交通運輸の諸課題への対応に活用されている「モビリティ・マネジメント」のエッセンスとはどのようなものなのか、についてご講演いただきます。

続いて、一般財団法人計量計画研究所理事兼企画戦略部長の牧村和彦様から、人々の行動変容に繋がるための先進的な MaaS の取り組みをご紹介いただくとともに、長年モビリティ・マネジメントに取り組まれてきたご経験を踏まえて、アナログなモビリティ・マネジメントがデジタルによって市民の交通に関するコミュニケーションにもたらす様々な可能性についてご講演いただきます。

なお、谷口先生と牧村様のお二方には、当研究所の「新しいモビリティサービスの実現方策検討委員会」の委員として継続的にご協力をいただいております。

最後に、市町村の現場で熱心な取組を進めておられる栃木県小山市都市整備部技監の浅見知秀（あざみ ともひで）様から、自治体としての課題、ビジョンを含めた小山市のプロジェクトについてご紹介いただきます。

「住む人、来る人、老若男女だれもが自由に移動できる、まちの実現」を目指す小山市の実例を交えながら、MaaSと「モビリティ・マネジメント」を活用して様々な角度から取り組んでおられる公共交通利用促進プロジェクトの効果や現状の課題についてご講演いただきます。

それぞれの皆様のご講演の後、谷口先生に進行役を兼ねていただきながら、御三方の鼎談の形でさらに議論を掘り下げていただきつつ、適宜ご参加いただいている皆様方との質疑応答を行います。

最後に当研究所の山内所長から全体講評を行います。

本日のセミナーがご参加いただいております多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。